

つながりを切らない
孤立させない
新しいつながり方を提案する

つながる通信

第43号

発行日 2021年8月17日(火)

発行元

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

〒981-0932

仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F (CLC内)

FAX: 022-727-8737 E-Mail: t-net@clc-japan.com

ホームページ: <https://www.t-net.online/>

- ・民生委員、児童委員の皆さんに…
- ・サロンや地域のボランティアの皆さんに…
- ・配食のお手紙に添えて…

こんなふうに使ってね

この通信の印刷、配布はご自由にご利用ください。
記事やイラストの一部を転載・転用する場合は、
t-net@clc-japan.comまで
ご連絡をお願いいたします。

コロナ禍でもかたちを変えてつながり続ける

高齢男性の居場所 かもめの会 (大阪市大正区)

大阪市大正区中泉尾地域は、商店街やスーパーも近く、買いものにも便利な地域で、約6,200人が住む、高齢化率22.6%の地域です。

中泉尾地域で身近な困りごと相談などに応じる見守り推進員から、「妻を亡くした男性がどういう暮らしをしているのか、気になる。ずっと働いてきて地域との関係も少ない男性は、妻が亡くなると、地域になかなか出てくることもなく、閉じこもりがちで、体を悪くしていないかを心配している。なにか集まれる場はないものだろうか」と大正区社会福祉協議会に相談が持ち込まれました。

そこで、区社協生活支援コーディネーターは、見守り推進員、担当地域包括支援センター職員、地域のキーパーソンと話し合いをし、「きつかけ

をつくり、そこに出てきてもらうことはできないか」と考えました。配食サービスを利用して一人暮らし男性に「どんなことをしたら楽しいか」を聞くと、みんなで料理をつくったら楽しいのでは、という声があがり、2019年8月に、高齢男性に参加を限定した料理教室「かもめの会」がスタートしました。月1回の活動は口コミで広がり、会員は7人となりました。

目的は、つながりをつくり、外に出る機会をつくること

順調に思えた滑り出しでしたが、新型コロナウイルスの感染が拡大し、かもめの会も2020年1月から活動を休止することとなりました。「スタートしたばかりでようやく集まることが楽しいと感じられた矢先。活動を停滞させてしまう

のは寂しい」という声を受け、参加者同士で話し合いが重ねられました。

「調理のサークルだったが、目的は男性が地域のつながりをつくり、外に出る機会をつくること。調理ができなくても、何かできることがあるのではないかと、違うかたちで活動を続けることになりました。たとえば周辺散策では、近くの公園や神社にも足を運び、お互いの健康を確認し合いました。地域包括支援センターが主催した終活の講座で学び合ったことから、「今度はスマホ教室を開催したい」などの声が聞こえてくるようになってきました。

調理はできなくても、月1回の頻度は維持しながら活動を継続したことで、メンバーの結束は強くなり、「地域のために何かしたい」という思いが芽生え、ボランティアグループとして登録をされるまでになりました。



新型コロナウイルスの感染が続く状況下で、「活動は模索中」と言いますが、つながり続けることで新たな地域の力が生み出されつつあります。

つながるポイント

- ・活動の目的を共有し、つながり続けることに重点を置く
- ・つながり続けることで、新たな活動が生まれる

日々の暮らしのなかで見守り合い、気にかけて合いを続ける

福井義明さん（奈良県葛城市）

葛城市旧兵家地区の畑に、ひととき目立つアマビエの力カシがあります。その製作者は、福井義明さん。長年勤めたトラックの運転を10年前に退職してから、畑仕事を始められました。現在72歳の福井さんは、毎日畑に出て草刈りをし、道行く人のおしゃべりを楽しんでいます。

出会い、楽しみ合える場に

毎日草刈りをしているだけあって、福井さんの畑はとても美しく整っています。畑の前は、近所の幼稚園の通園路ともなっていて、散歩中の人や近所の人など、通りがかりの人から声をかけられるようになり、挨拶を交わしたり、世間話をしたり、野菜のつくり方を教えたりするようになりました。あるとき、顔なじみとなった幼稚園の先生から、「登園中の子どもたちが喜ぶようなものをつくってほしい」と



福井さんとアマビエと生活支援コーディネーター



人を招くことを願い設置された、両手を挙げた招き猫



畑を眺める

頼まれたことをきつかけに、福井さんは力カシづくりに取り組み始めます。「子どもたちが喜ぶように」とキャラクターの力カシをつくってみると、さらに遠方から力カシを見に来る人や、週末に孫を連れて立ち寄ってくれる人も見えるようになりました。

畑の近くのデイサービスのスタッフに、「家でも野菜をつくってみてみたいから教えてほしい」と言われた福井さん。野菜づくりを教えるだけでなく、「早くに母親を亡くしていることもあって、お年寄りが好きなんや」と言うように、デイサービスの利用者を招いてイチゴ狩りを体験してもらったり、できた野菜を届けたり、力カシが入れ替わるころには寄付をしたりと交流が続いています。また、近所の障がい児を抱える家族のためにサツマイモを植え、イモ掘り体験をさせて

あげたこともあります。

地域の人を喜ばせたい

福井さんの畑には、ユウガオやコキアなどが植えられることも。ユウガオはカンピョウの原料となり、大きな実をつけます。コキアはふんわりとした草姿が人気で、秋には紅葉して人々の目を楽しませてくれます。「通りがかりの人、地域の人を驚かせたり、喜ばせたりしたい」という福井さんの遊び心が見え隠れします。

そんな福井さんの楽しみは、同世代の友人とお風呂に入り、お酒を酌み交わすこと。ですが、新型コロナウイルス禍では、それが叶えられません。

「コロナで行くところがない。いつでも、ここにいるよ」と言う福井さんがつくったのは、役員退散を願ったアマビエの力カシ。設置すると、「ウチの地域のほうにアマビエを向けてほしい」などの声がさっそくかかるようになりました。「コロナで行くところがない、畑しかない」と言う福井さんですが、その畑が、お互いを気にかけて合い、優しく見守り合える地域のたいせつな交流拠点となっています。

つながるポイント

- ・ 毎日の畑仕事で、地域の人と知り合い、気にかけて合う関係に
- ・ 「喜ばせたい」思いが、地域のつながりを生む

編集部からのお知らせ

「つながる通信」が本になりました！
「withコロナ 新しい生活様式で進める地域づくり～地域共生社会を見据えた地域活動のヒント集～」、絶賛発売中です。
詳細はコチラのQRコードからどうぞ。



「つながりを切らない」
情報・交流ネットワークで
最新情報をチェック！

「つながりを切らない」
情報・交流ネットワーク
<https://www.t-net.online/>



好評につき
増刷しました

<各地の実践をお寄せください！>

「つながる通信」では、各地での実践を募集しています。「わがまちでこんな取り組みをしている」「私たちはこんな工夫をして、気になる人とつながっている」、そんな情報を編集部までお寄せください。後日、編集部より電話などで取材をさせていただき、本通信やホームページ等で紹介させていただきます。情報は、E-mail: t-net@clc-japan.com、fax: 022-727-8737まで。E-mailの場合は、タイトルを「情報提供」としていただき、①活動内容、②ご担当者名、③ご連絡先を記載ください。本通信の感想やご要望もお気軽にどうぞ！

